

さあ こまった

ゆうきくんとりえさんは、黒板係です。2時間目が終わった後、2人で黒板を消していました。みんな外へ遊びに行っていないし、先生もどこかへ行って、教室にはいません。仕事が終わりがけたときのことです。「ガッちゃん！」黒板消しをしていたりえさんの手が、花瓶にあたって、割れてしまいました。ゆうきくんが、「あー。」といて、りえさんを見ると、りえさんは「あー、どうしよう」と今にも泣き出しそうです。そんなりえさんの顔を見たゆうき君は「だいじょうぶ。気を付けて、割れた花瓶を片付けよう。」とりえさんを元気づけました。そして、2人は、割れた花瓶のかけらを、けがをしないように拾っていきました。

かけらを拾いながら、ゆうきくんはどきっとしました。長放課に友達と大縄の練習をする約束をしていたのです。ゆうきくんたちは、明日ある大縄大会のために練習をしていました。クラスでは、絶対に優勝しようとはりきっています。大縄大会はクラスのみんなで出場するので誰かがいないと困ってしまいます。ゆうきくんは、自分が「練習をしよう」と言い出したので、どうしても練習に行かなければなりません。「もう行かないと、大縄の練習には間に合わない。でも、りえさんをほっておいては行けない。みんなは、ぼくを待っているだろうな・・・。」

ゆうきくんは、泣き出しそうな顔をしてかけらを拾っているりえさんを見たり、大縄の練習の用意をして待っているチームのみんなの気持ちを考えたりして、迷ってしまいました。